

関係各位

公益財団法人日本サッカー協会

国際サッカー評議会(以下、IFAB)から2024年3月21日付回状第28号をもって2024/25年サッカー競技規則の改正を含む、第138回IFAB年次総会における決定について通達されました。

通達自体の日本語訳(概略)は、下記のとおりです。今回の改正により、ペナルティーエリア内での意図的でないハンドの反則には、ボールをプレーしようと試みて、またはボールに向かうことで(相手競技者に)チャレンジした反則と同じ考え方が、さらにペナルティーキック時の競技者によるペナルティーエリア内への侵入には、ゴールキーパーの侵入への適用と同じ考え方が適用されることになりました。また、今まで試行となっていた「脳振盪による交代(再出場なし)」の追加が、競技会で定めることができるオプションとして「第3条－競技者」に含められ、より多くの競技会で競技者の安全をより確保することができるようになったことは注目すべき点です(添付3)。さらに、一時的退場(シンビン)のガイドラインが改訂され(添付4)、加えて、競技者やチーム役員の行動の改善、そしてプレーイングタイム増加に関連する3種の試行が回状29号(添付5)として通達されました。

これまでどおり、サッカー競技にかかわる関係者、特に競技者、監督/コーチそして審判員はこれらの改正を十分に理解した上で、プレー、指導、そしてレフェリングに携わっていただきたく、お願い申し上げます。

IFABからの回状に添付されている「2024/25年競技規則－概要と詳細」の日本語訳は添付1のとおりです。各協会、連盟等において、加盟クラブ、チーム、審判員等関係者に周知徹底を図られるよう、併せてお願い申し上げます。

これらの改正等は、国際的には2024年7月1日から有効となっています。日本サッカー協会、各地域/都道府県サッカー協会等が主催する他の試合については、添付2のとおり適用されます。なお、今回の競技規則の主な改正についての説明用映像を本協会のホームページに6月初旬までに掲載する予定です。

## 記

### 第138回国際サッカー評議会年次総会の決定について

2024年3月2日、スコットランドのロソホ・ローモンドにおいて、国際サッカー評議会(IFAB)第138回年次総会が、スコットランドサッカー協会のマイク・ムルラニー会長が議長になり開催された。年次総会における主たる決定は次のとおりである。

承認された競技規則変更を施行するための準備が遅滞なく確実に進められ、また、競技規則翻訳の手助けになるよう、すべての変更は添付文書(2024/25年競技規則変更)に示すと共にIFABのウェブサイト(<https://www.theifab.com/de/documents>)にもアップしている。

2024/25年競技規則は、2024年7月1日から有効になる。7月1日より前にシーズンを開幕する競技会は、これらの変更を事前に適用することも、遅らせて次シーズンの開幕以降に適用させることも可能である。同じ原則が、「脳振盪による交代の追加における実施手順」、および改定された「一時的退場(シンビン)のガイドライン」にも適用される。試行の初期段階が終了し、結果が分析されたら、IFABは試行における実施手順を改善する必要があるかどうか、また試行について国際競技会を含むトップレベルの競技会に広げることができるかどうかを決定する。

## 1. 2024/25年競技規則

年次総会において様々な変更や明確化が承認されたが、前述のとおり、文章そのものは添付の「2024/25年競技規則の変更」に示している。

### 主な競技規則の変更

#### ● 第12条 – ファウルと不正行為

年次総会は、ペナルティーエリア内での意図的でないハンドの反則については、ボールをプレーしようと試みて、または、ボールに向かうことで(相手競技者に)チャレンジした反則(ファウル)と同じ考え方を適用すべきであることに合意した。その結果、意図的ではないハンドの反則に対して与えられたペナルティーキックについては、相手チームの得点または決定的な得点の機会を阻止(DOGSO)の反則はイエローカードとなり、相手の大きなチャンスとなる攻撃を妨害または阻止(SPA)の反則はカードなしとなる。意図的なハンドの反則に対する罰則には変更はなく、押さえる、引っばる、押す、ボールをプレーする可能性がないなどと同じように、ペナルティーキックが与えられた場合でも引き続きレッドカードで罰せられる。

(ペナルティーキック時の)競技者による(ペナルティーエリア内への)侵入は、その侵入により影響があった場合にのみ罰せられることが決定され、これはゴールキーパーの侵入への適用と同じ考え方である。また、ボールの一部がペナルティマークの中央に触れるか、かかっているか、かかっていないかについても決定された。

### その他の変更および明確化

#### ● 第3条 – 競技者: 第4条 – 競技者の用具

チームには、(キャプテンとして)識別できるアームバンドを着用したキャプテンがいなければならないことで合意した。キャプテンは、関連する競技会主催者によって用意もしくは許可されたアームバンド、または単色のアームバンドを着用しなければならない。

また、すね当ての大きさや適切さについては、競技者自身の責任であることにも合意した。会議では、競技者が非常に小さい、または薄いすね当てを着用することに起因する潜在的な危険性を認識する必要があるとして意見が一致した。

「一時的退場(シンビン)のガイドライン」の改訂を含む、2024/25年競技規則に含むことが承認された、**その他の変更と明確化**については、上記の添付資料で詳しく説明されている。また、それらの資料は <https://www.theifab.com/documents> から入手できる。

## 2. 「脳振盪による交代(再出場なし)」の追加

年次総会出席者は、「脳振盪による交代(再出場なし)」の追加に伴う試行について最新情報の説明を受け、「脳振盪による交代(再出場なし)」の追加を、競技会で定めることができるオプションとして「第3条 – 競技者」に含めるべきことに合意した。実施手順の詳細は「注記および修正」に含まれる予定である。試行には2つの実施手順が含まれていたが、年次総会は、チームが試合の中で脳振盪による追加の1名の交代要員を使うことができ、もう一方のチームは、1名の追加の交代要員(および交代回数)を得られるという、1つの実施手順を使うことを決定した。実施手順はこの回状に添付されている。

また、現段階では「脳振盪による一時的交代」の試行は実施せず、引き続き検討することも合意された。

## 3. VARに関する決定のアナウンス

年次総会出席者は、2023年11月の年次事務会議(<https://www.theifab.com/news/abm-2023>)で、国内競技会で主審が、VARの「レビュー」または長いVARの「チェック」の後に、最終結果を会場でアナウンスし、説明するという進行中の試行を延長するとした決定について説明を受けた。

#### 4. 試合参加者の行動の改善とプレーイングタイム増加または時間の浪費削減に関する試行

年次総会出席者は、年次事務会議によって承認された、参加者の行動の改善とプレーイングタイム増加に関連する試行を支持した。その詳細は回状29号に記載されている。

一時的退場(シンビン)に関して、年次総会出席者は、一部の競技会でオプションとして使うことができる現在のガイドラインを研究し、将来的にその使用を拡大できるかどうかについて検討することに合意した。ガイドラインは書き直され、年次総会で合意したいくつかの変更を含んでいる。改訂されたガイドラインはこの回状に添付されている。

#### 5. その他の事項

年次総会出席者は、競技者がカメラやマイクを着用することは引き続き厳しく禁止されており、審判員については、IFAB が承認したトライアルの一環としてのみカメラを着用することができる、というIFABの立場を強固なものとした。

年次総会出席者は、2020年の第134回年次総会で承認された、オフサイドの規則の新たなアプローチについての試行に関する報告書をFIFAから受け取った。試行は継続され、結果は注意深く監視される。

2024/25年競技規則の冊子のすべては近くIFABのウェブサイトアップされるので、ダウンロードできるようになる。また、最新の競技規則は、2024年7月1日からIFABアプリでも見ることができる。

(<https://www.theifab.com/logapp/>)

IFABは、競技規則が試合の変化を反映し、競技のフィールドにおけるフェアさやインテグリティを促進し、保証するために進化し続けるように、関係者との世界的な協議を継続していく。

みなさま方のご協力に感謝する。何か疑義、質問があれば、ご連絡いただきたい。

敬具

IFAB事務局長  
ルーカス・ブラッド

[添付]

添付1: 2024/25年サッカー競技規則変更の概要と詳細

添付2: 2024/25年サッカー競技規則適用開始日

添付3: 2024/25年サッカー競技規則「脳振盪による交代(再出場なし)」の追加: 実施手順

添付4: 2024/25年サッカー競技規則改訂版「一時的退場(シンビン)」ガイドライン

添付5: IFAB回状29号「新たな試行の承認」

添付5-1、2、3:

- ① キャプテンのみが主審に話しかける(アプローチする)ことが可能
- ② クーリングオフ時間
- ③ ゴールキーパーによる長過ぎるボール保持